

Google Geminiの「ガイド付き学習」モードとAI教育の最新動向

1. Google Geminiの「ガイド付き学習」モードの機能と特徴

● **機能概要:** 「ガイド付き学習 (Guided Learning)」は、Googleの大規模言語モデルGeminiに追加された新モードです。通常のAIが即答を返すのではなく、**学習の伴走者**としてユーザーに問いかけや段階的のヒントを与え、ステップごとに問題解決を支援します¹。Googleは「答えを得ることではなく、理解を深め批判的思考力を養うこと」が目的だと説明しており、このモードでは一問一答ではなく**対話を通じて知識を深める**よう設計されています^{1 2}。

● **利用方法:** Geminiアプリ内でガイド付き学習モードを選択すると、AIが**対話形式のチューター**として振る舞います²。例えば数学の複雑な問題に直面した場合、すぐに答えを教えるのではなく「まず何が与えられているか整理してみましょう」といった具合に質問し、ユーザーの考えを引き出します³。回答も一度にすべてを教えるのではなく、**問題を段階的に分解して**提示します²。ユーザーが途中で間違った方向に進めば追加のヒントを出し、正しく理解できるまで寄り添います。この対話はジャッジメントフリー（評価される不安のない）な空間で行われるため、学生が自分のペースで安心して質問しながら学べるのも特徴です⁴。

● **学習効果への配慮:** ガイド付き学習は**学習科学の知見**に基づいて設計されました⁵。Googleは2022年から教育研究者や神経科学者とチームを組み、「AIがいかに責任ある形で学習を支援できるか」を検討してきました⁶。その成果として、教育に特化したモデル群「LearnLM」を開発し、Geminiに統合しています⁷。このモデルはユーザーの現在の理解度に合わせて説明の深さや例を調整することが可能で、**一人ひとりに合わせた学習サポート**を実現します⁸。例えばある概念について基礎が曖昧な場合は丁寧に基本から説明し、理解が進んでいる場合はより応用的な内容に踏み込むなど、**学習者のレベルに応じた柔軟な対応**が取られます⁸。

● **マルチモーダルでの回答:** ガイド付き学習モードでは、テキストだけでなく**画像・動画・クイズ形式**のインタラクティブな要素を取り入れた回答が得られます⁹。たとえば生物のプロセスを学ぶ際には構造図や映像を提示したり、学習の確認のために簡単なクイズで理解度をチェックすることもできます⁹。このような**リッチなマルチモーダル応答**によって、視覚的・体験的に理解を深める工夫がなされています⁹。実際、「酵素に関する試験準備」や「ミツバチの生態系での役割調査」といった具体例でも、動画や図を交えてわかりやすく説明してくれることが紹介されています¹⁰。

● **対象ユーザーと活用例:** 主な対象は**学生**ですが、基本的には「誰でも、どこでも、どんなことでも自分に合った方法で学べる」ことを目指しています¹。大学生から高校生、自学自習する社会人まで幅広く利用可能です。想定される活用例としては、**複雑な数学問題のステップ解説**、**小論文の構成を対話しながら練る**、**試験勉強のための概念理解**、**宿題の取り組み方のヒント**など、多岐にわたります¹¹。実際、Gemini 2.5 Proモデルの性能を活かし「宿題やライティングの迅速な助け」にもなりうるかとされています¹²が、あくまで答えを代わりに提出するのではなく**思考プロセスを支援する**形で提供されます。

● **教育現場での連携:** ガイド付き学習モードは**教師との連携**も意識されています。Googleはこの機能を教室で活用するために、Google Classroomに直接リンクを共有できる**専用リンク**を用意しました¹³。教師が授業内で「このトピックはガイド付き学習で復習してみよう」と案内することで、生徒はワンクリックでGeminiのガイド付き対話にアクセスできます。また、教師や教育研究者からのフィードバックも取り入れて継続的に改良する方針で、「実際の学習効果を検証しながら機能改善を進める」姿勢を示しています¹⁴。

● **今後の展開:** Googleはガイド付き学習を「誰もが何でも学べる世界」を目指す取り組みの一步と位置づけており、今後も専門家との協働や研究を通じて、このモードをより有用なものに育てていく計画です¹⁴。また、ガイド付き学習に加えて**マルチモーダルな回答強化**（自動で高品質な画像・動画を回答に組み込む機能）や、**インタラクティブな学習教材生成**（ユーザーの教材から自動で学習ガイドやフラッシュカードを生成する機能）といった周辺機能の拡充も発表されています¹⁵¹⁶。これらによりGeminiは単なるQ&Aだけでなく、**総合学習プラットフォーム**として進化していくことが期待されています。

2. OpenAIの「スタディモード」との比較

Googleのガイド付き学習モードとOpenAIのChatGPTに新たに追加された「スタディモード (Study Mode)」は、いずれも**学生の理解を深めるための対話的な学習支援機能**という点で共通しています¹⁷。両者とも「すぐに答えを教えない」設計であり、質問の投げかけやヒント提示を通じて**批判的思考を促す**目的を持っています¹¹⁸。一方で、提供形態や具体的な機能にはいくつかの違いもあります。以下に主な違いと類似点をまとめます。

項目	Google Gemini「ガイド付き学習」	OpenAI ChatGPT「スタディモード」
提供開始	2025年8月6日（Google公式ブログで発表） ¹ ¹⁹	2025年7月29日（OpenAI公式発表） ²⁰
利用対象・提供形態	Geminiアプリ内の新モードとして提供。Gemini 2.5 Proモデル上で動作し、現在は主に大学生向けに無料開放中（後述のAI Proプラン） ²¹ ²² 。将来的には一般ユーザーも利用可能と予想される。	ChatGPTの機能の一つとして提供。無料プラン含むすべてのユーザーが トグル（切替ボタン） で有効化可能 ²⁰ 。教育機関向けのChatGPT Eduプランにも数週以内に展開予定 ²⁰ 。
対話の特徴	学習専用に最適化 された対話。質問や誘導によってステップごとに解法を探索し、答えに至るプロセスを共に構築する ¹ 。必要に応じて画像・動画も提示しながら、ユーザーのペースに合わせて説明を調整 ⁹ 。	ソクラテス式対話 に近いスタイル ²³ 。直接の答えを求める問いには一旦応じず、まず「何に困っているのか?」「どのレベルの理解か?」を確認し ²⁴ 、段階的にヒントや質問を返す。ユーザーが考えを示すまで 解答を保留 するケースもある ²⁵ 。
マルチモーダル対応	対応あり: 回答に静止画・動画・図表を自動組み込み。理解度チェックのクイズ機能も内包 ⁹ 。視覚的教材で概念理解をサポート。	限定的: 現時点ではテキスト中心。対話内で図をASCIIアート等で示す場合はあるが、画像や動画を直接埋め込む機能はない（将来的な改善項目として視覚的説明強化を検討中 ²⁶ ）。
パーソナライズ	高い: 学習専用調整されたモデル（LearnLM由来）がユーザーの反応や理解度に合わせ説明の深さ・ペースを動的に変更 ² ²⁷ 。ユーザーごとの過去の対話履歴も活用し、最適な難易度・説明手法を選択。	高い: システムプロンプト（内部指示）で実現。ユーザーの目的やスキルレベルを質問して把握し、それに応じて説明の詳しさや進め方を調整 ¹⁸ ²⁸ 。過去のチャットの記憶も参照し、理解度に合った問題提起やフィードバックを行う。
主な機能	ユーザーの 思考を喚起する質問 投げかけ、 段階的な問題解法 、 プロセス重視の解説 ² 。加えて 画像・動画・クイズ による多角的な説明 ⁹ 。教師がClassroom等で共有できるリンク提供 ¹³ 。	対話型ヒント出し （Socratic questioning）、 段階的な解説（scaffolded responses） で複雑な内容もセクション分けして提示 ²⁹ 。 自己振り返り促進 の質問や 小テスト形式の知識確認 、回答に対する個別フィードバック機能も搭載 ²⁹ ³⁰ 。ワンクリックでオン/オフ切替可能 ³¹ 。

項目	Google Gemini「ガイド付き学習」	OpenAI ChatGPT「スタディモード」
教育現場での展開	Google Workspace for Education経由で 学校向けにも提供予定 。既に大学など教育機関向けにGemini 2.5 Proを無償提供開始 ³² 。教師・学生からのフィードバックを取り入れ継続改良。 ¹⁴	OpenAIは ChatGPT Edu として学校にライセンス提供（学校管理者が全生徒分購入する形態）を開始 ³³ 。またスタンフォード大学の研究者と提携し、AI活用が学習成果に与える影響を共同研究 ³⁴ 。教育団体と協働しながら機能改善・エビデンス収集を進める計画 ³⁴ 。
制約・その他	モードを使用せず通常のGeminiチャットに戻ることも可能。現在は英語をはじめ多言語でも利用可能とみられる（提供国に日本や韓国が含まれる） ²¹ 。将来的な課題は利用者がこのモードを積極的に使うか（ショートカットに逃げないか）という点 ³⁵ 。	モードは 任意でオンオフ でき、強制力はない ³⁶ 。そのため生徒が誘惑に負け通常モードで答えを得る可能性は常にある ³⁷ 。今後、保護者や教師がスタディモードを 強制ON できる仕組みも検討の余地ありと示唆 ³⁶ 。

表：Google Gemini「ガイド付き学習」モードとOpenAI ChatGPT「スタディモード」の比較

上記のように、いずれも「**解答を教えるAI**」から「**学習を支えるAI**」へと設計思想を転換している点は共通しています¹⁷。GoogleもOpenAIも教育の専門家と協力して開発しており、**長年の学習科学の知見**（対話的学習、認知負荷の調整、メタ認知の促進など）を取り入れていることが特徴です³⁸⁶。両者とも学生が**主体的に考えるよう誘導**し、単なる回答の丸写しによる弊害を減らそうとしています。

一方で、**提供形態の違い**から利用シーンに若干の差があります。ChatGPTのスタディモードは従来のChatGPTにワンタッチで切り替えられる機能であり、誰でも手軽に使える反面、**容易に通常モードへ戻ってしまう点**が指摘されています。「直接答えをくれる通常モードまでワンクリックという距離で、学生がその誘惑に抗うのは難しいかもしれない」との声もあります³⁷。実際、OpenAI自身も「現時点では生徒をスタディモードにロックするような管理機能は提供していない」と認めており、結局のところ**使うかどうかは学生の意志次第**という課題が残ります³⁶。

一方、Googleのガイド付き学習はGeminiアプリ内のモードとして独立しており、学校の授業や課題リンクから直接そのモードに入る運用も想定されています¹³。教師が「ガイド付き学習モードでやってみましょう」と指定すれば、生徒はその誘導に従いやすく、**教育現場で組み込みやすい設計**とも言えます。ただし最終的には通常のGeminiチャットや他のAIツールに頼ることもできてしまうため、**AI側だけで不正利用を完全に防ぐことはできない点**は共通の課題です³⁵³⁷。

3. 教育分野におけるAI活用の最新動向

● **主要企業の取り組み**： 2023年以降、生成AIの教育活用が一気に加速し、GoogleやOpenAI、Microsoftといった主要企業が相次いで**教育向けAIサービス**を打ち出しています。Googleは前述の通りGeminiにガイド付き学習モードを導入し、**学生向けにAIツールを無償提供**する大規模施策を開始しました²²。OpenAIもChatGPTにスタディモードを追加し、「**解答ではなく学習支援をするAI**」としての方向転換を打ち出しています¹⁷。Anthropic（Claude開発企業）も2025年4月にChatGPTやGeminiに似た**学習支援モード「ラーニングモード」**を発表しており³⁹、**大手AI各社が教育分野を重要な市場と捉えている**ことがうかがえます。

Microsoftもまた、自社の生成AI（OpenAIのGPT-4を基盤とする「Copilot」）を教育分野に積極展開しています。2023年末には「**Microsoft 365 Copilot Chat**」を高等教育の学生・教職員に無償開放すると発表し、安全な商用データ保護環境下でGPT-4やDALL-E3等の機能を利用できるようにしました⁴⁰⁴¹。これにより学生は**Edgeブラウザ上のCopilot**を使ってレポート作成やデータ分析、画像生成まで行えるようになっていま

す⁴¹。具体的な活用例として、Copilotを用いて「課題文の要約」、「アイデア出し（ブレインストーミング）」、「数学問題の解法手順提示」、「情報検索と出典提示」、「文章の改善提案」などが容易にできると紹介されています⁴²。また、教育版ではプライバシーに配慮し**チャット履歴を保存・学習に利用しない措置**（Bing Chat Enterprise同等のデータ保護）を取ることで、学校でも安心して使える環境を提供しています⁴¹。

さらに、教育特化の取り組みとしては、**Khan Academy**がOpenAIと提携して開発したAIチューター「Khanmigo」が注目されています。これはGPT-4をベースに、生徒の質問にチューターのように対話で答える実験的サービスで、米国の一部学校で試行されています。大手以外でも各種EdTech企業がAIを組み込んだ学習アプリを提供し始めており、**生成AIを教育に活かす動きは業界横断的に広がっている状況**です。

● **教育現場の反応**: こうした企業主導のAI提供に対し、教育現場でも対応が進んでいます。当初、ChatGPTが登場した2022～2023年には「**生徒が宿題をAIにやらせてしまう**」懸念から、多くの学校で利用禁止措置が取られました。しかし2023年後半になると、「AIは禁止できない以上、むしろ**適切な使い方を教えるべき**」との認識が広がり始め、ニューヨーク市をはじめ**禁止令を撤回**する教育委員会も出てきました⁴³。現場の教師も次第にAIと共存する方向に舵を切りつつあり、2024年の調査では**米教師の79%がChatGPTを認知**し（一年前は25%）、その多くが「AIは教育にポジティブな影響を与えている」と回答しています⁴⁴⁴⁵。実際に**84%の教育者が何らかのAIツールを自分の業務に活用している**との調査結果もあり⁴⁶、教材作成や事務作業の効率化にAIを役立てる教師が増えています。

もっとも、受け止めは一樣ではありません。懸念事項として**最も多いのはカンニングなど不正行為への悪用**で、ある教師アンケートでは**84%が「生徒の不正（ズル）につながる」と心配している**という結果もあります⁴⁷。また「AIに頼りすぎると**生徒の文章力や思考力が低下するのではないか**」という声も根強くあります⁴⁸。実際、2023年に発表された研究では、エッセイを書かせる課題でAIを使った学生は自力で書いた学生より**脳の活動レベルが低かった**（思考負荷が小さかった）ことが報告されており⁴⁹、安易な活用が学習機会を奪う可能性も指摘されています。

こうした課題に対処するため、多くの教育団体や専門家が**AIリテラシー教育**や**利用ガイドライン**の整備に乗り出しています。国際的にはUNESCOが「教育におけるAI活用ガイド」を策定し、高等教育向けのAI利用指針を提示しています。また各国の教育省や大学でも「生成AIの活用ポリシー」を発表し、どのような場合にAIの力を借りるのが適切か、逆にどんな使い方が禁止されるべきかを議論しています。米国ではホワイトハウスが2023年末に**AIの教育活用促進のための大統領令**を出し、教師研修の充実や教育用AI開発への投資を盛り込むなど、政策レベルでも学校へのAI導入を後押ししています⁵⁰。

● **課題と可能性**: 教育におけるAI活用の**メリット**としては、(1) 個別最適化学習: 一人ひとりのペースや得意・不得意に応じた指導が可能、(2) 学習リソースの拡充: 教師1人あたりの生徒数が多い場合でもAIチューターが補助できる、(3) 教師の業務負担軽減: 採点やレポートフィードバックの自動化で教師はより創造的指導に時間を割ける⁵¹、などが挙げられます。実際、米国のある中学校ではAIを使って**生徒の躰きやすい数学問題にヒントを自動生成**し、「生徒が行き詰まったときAIがヒントを出すことで自力解決を促す」試みが成果を上げています⁵²。また、読み書きが苦手な生徒に対して**対話型で読み方を支援**するツールや、家庭での**個別学習プランをAIが提案**する取り組みなど、学力格差の是正や特別支援教育への応用も期待されています。

一方、課題としては、(1) 学習者のモチベーション依存: 前述の通りAIを正しく使うかは学生次第であり、**楽な方（直接答え）に流れる誘惑**にどう打ち克つかという問題³⁷、(2) AIの誤情報リスク: AIが**確信度高く誤った回答（幻覚）**を出す可能性があり⁵³、それを見抜きリテラシー教育が必要、(3) 倫理・プライバシー: 生徒データをAIに入力する際のプライバシー保護や、AIから出力されたエッセイの盗用問題など**新たな倫理問題**への対応、(4) 教員研修: 教師自身がAIを理解・活用するスキルを身につける必要がある——等が指摘されています。これらの課題に対し、各社は**技術面と制度面の両面から対策**を進めています。例えばMicrosoftは教育版AIでデータを学習に利用しない措置を取りプライバシーに配慮しており⁴¹、OpenAIやGoogleは専門研究

機関と提携してAI活用の学習効果を長期的に研究するとしています³⁴。また、教師向け研修プログラムやオンライン教材を整備し、AIを授業設計に取り入れる方法を共有する動きも活発化しています⁵⁴⁵⁵。

総じて、AIの教育活用は急速に進展する一方で、教育の本質をどう守り伸ばすかという模索が続いている段階と言えます。主要テック企業はこぞって教育市場に参入しつつあり、その提供するツールは日進月歩で改良されています。教育現場では歓迎と警戒の声が混在していますが、適切なガイドラインとリテラシー教育によって「AIを味方につける」方向へと議論は動き始めています。今後も技術の進化と現場からのフィードバックを踏まえ、AIと人間の協働による新しい学びの形が模索されていくでしょう。

4. Googleの大学生向け「AI Proプラン」（12カ月無料）の内容と戦略

Googleは2025年8月、大学生（18歳以上）を対象に「Google AI Proプラン」を12か月間無料提供するキャンペーンを発表しました²¹。これは、同社の最新AIツール群を学生が積極的に活用できるように支援する施策で、アメリカ合衆国のほか日本、インドネシア、韓国、ブラジルの5か国で先行展開されています²¹。対象となる学生は**2025年10月6日までに**専用サイトから申し込むことで、1年間の無料アクセスが得られます⁵⁶²²。以下、このAI Proプランに含まれる具体的な内容と、その狙いについて解説します。

● **AI Proプランの内容（無料提供される機能）**：学生向けAI Proプランには、Googleが提供する**最先端のAI機能**が一式含まれています¹²。主な特典は以下の通りです。

- **Gemini 2.5 Proへの拡張アクセス**：現行で最も高性能なGeminiモデル（2.5 Pro版）を使った対話が可能です。高度な質問への回答や画像アップロードを伴う問い合わせにも対応し、レポート作成や宿題の下調べなど**学業に直結するQA**を高速に支援します¹²。
- **Deep Research機能**：膨大なウェブ情報を要約・整理した**カスタム調査レポート**を自動生成する機能です。数百のウェブサイトから関連情報を集約し、主な論点や出典をまとめてくれます¹²。Pro版ではこのDeep Researchがより高性能に使い、時間のかかる文献調査を効率化できます¹²。
- **NotebookLM**：AIを活用したノート整理・発想支援ツールです。自分のメモや資料をアップロードすると、内容を理解したAIが要点をまとめたり質問に答えたりしてくれます。今回のプランでは**音声・動画の要約機能**が強化（5倍に拡大）された最新版が利用できます⁵⁷。ノートや講義録の理解、学習計画の整理に役立つ「**考えるための伴走者**」として機能します。
- **Veo 3**：テキストや写真から**8秒程度の短い動画を生成**できるツールです⁵⁸。例えば文章でアイデアを書けば、それを視覚的な動画コンテンツに変換できます。ナレーションや音響効果も付与されるため、プレゼン資料や創作プロジェクトに活用できるでしょう⁵⁸。
- **Jules（コード支援AI）**：プログラミング学習者向けの**非同期型AIコーディングエージェント**です。コードのバグ修正や新機能の実装を提案・支援してくれます。ProプランではJulesの利用上限が引き上げられ、大規模プロジェクトや複雑なバグ修正にも余裕をもって対応できます⁵⁹。情報系の学生やコーディング課題を抱える学生に有用です。
- **2TBのクラウドストレージ**：Google Drive/Photos/Gmailを含む合計2テラバイトのオンラインストレージが提供されます⁶⁰。大量の授業ノート、研究データ、制作物などを保存するのに十分な容量であり、学業で発生する様々なデジタルデータを一元管理できます。

以上が無料で1年間使える範囲で、まさに「**GoogleのAIフルパッケージ**」とも言える内容です。Googleは「我々の最も先進的なAI学習ツールを学生に提供する」と述べており⁶¹、単なるチャットボットだけでなく**学習・創作・調査・コーディングまでカバーする包括的支援**を用意したことがわかります。

● **申し込み方法と対象要件**：対象は**大学や短大、専門学校などに在籍する18歳以上の学生**とされています²¹。申し込みはGeminiアプリの公式サイトから行い、学生であることの証明（学生用メールアドレスなど）の提示が求められる可能性があります。対象国の学生であれば誰でも応募でき、受付期間内であれば先着順ではなく全員が恩恵を受けられる形です。なお、Googleは「数週間以内に対象国をさらに拡大する予定」と述べており⁵⁶、今後他の地域の学生にも順次開放される見込みです。

● **戦略的意図・狙い:** この大学生向けAI無償提供には、Googleの**長期的な戦略意図**がいくつか考えられます。

- ・ **(1) 次世代ユーザーの囲い込み:** 大学生は将来社会に出てからも高度ITツールを使い続ける層です。学生時代にGoogleのAIツールに慣れ親しんでもらうことで、将来にわたってGoogleエコシステムのユーザーになってもらう狙いがあります。実際、**2TBストレージ提供**や各種アプリの統合利用を促す構成は、Googleサービスへのロイヤリティ醸成につながります。Sundar Pichai氏は「大学院時代にコンピュータへ定期的にアクセスできたことが自分の人生を変えGoogleへの道を開いた」と述べており、同じように**最高の技術を学生に届け新たな世界を開いてほしい**との考えを示しています⁶²。
- ・ **(2) 教育市場でのポジショニング:** 大学はAI活用の是非が最も議論されている場の一つです。そこでGoogle自らが学習支援にフォーカスしたAIを提供することで、「AI=不正の手段」というイメージを払拭し「**AI=学びを深化させるツール**」というポジショニングを確立したい狙いがあります⁶³。事実、Googleの発表やプロモーションでも「宿題のカンニングではなく**真の理解を助ける**」ことを強調しており³⁵、OpenAIなど他社との差別化を図っています。
- ・ **(3) 人材育成と社会的責任:** Googleは同時に**今後3年間で10億ドルを教育分野に投資**し、AIリテラシー向上や研究支援、クラウド環境提供を行うと発表しました⁶⁴。全米の大学生に無料のAI職業訓練や認定資格を提供する「AI for Educationアクセラレータ」も開始しており⁶⁵、単に自社の利益追求だけでなく**社会全体のAI人材育成に貢献する姿勢**を示しています。大学生へのAI Proプラン提供もこの一環であり、将来的にAIを使いこなす人材を増やすことでAI業界全体の発展と、ひいては自社サービスの需要拡大につなげる狙いがあると言えます。
- ・ **(4) OpenAI対抗とフィードバック収集:** 現在、学生の間ではChatGPTを始めとするOpenAIのツール利用が広がっています。Googleとしては**自社のGeminiを学生に試してもらい、フィードバックを得る**好機と位置付けているでしょう。無料提供によって大量の学生ユーザーが実際にGeminiを使えば、どのように学習に使われどんな質問が多いか等、貴重なデータが得られます。これはモデル改良や新機能開発に役立つだけでなく、競合製品との差異を分析し戦略を練る材料にもなります。**学生のリアルなニーズを吸い上げるマーケティング施策**としての側面もあると考えられます。

総合すると、Googleの大学生向けAI Proプラン無料提供は、**教育への社会貢献と自社戦略が合致した施策**と言えます。「全ての学生に最高のテクノロジーを届ける」ことはGoogleの基本理念の一つであり⁶⁶、Chromebook普及やClassroom提供など従来から教育支援を重視してきました。その延長線上で、AI時代の学習インフラとしてGeminiと関連サービスを位置づけ、**学生を中心としたユーザー基盤の拡大と健全なAI利用文化の醸成**を同時に狙っているものと考えられます⁶⁷。

このように、Google Geminiのガイド付き学習モードやOpenAIのスタディモードといった新機能の登場、各社の教育市場への参入競争、そして教育現場の模索は、AIが学びの風景を大きく変えつつあることを示しています。今後も技術の進歩と現場からの声をもとに、より良い形でAIが教育に溶け込むことが期待されます。それは決して「魔法の解決策」ではなく、**人間の教師や生徒との協働によって初めて実現する革新**であるという点も、各社のアプローチから浮かび上がっています⁶⁸。学生たちがAIを上手に活用し、自らの好奇心と批判的思考をさらに伸ばせるよう、企業・教育者・政策立案者が一体となって取り組んでいくことが重要になるでしょう。

参考文献・情報源: Google公式ブログ¹²⁹¹³、OpenAI公式ブログ¹⁸²⁹²⁶、The Verge¹⁷、TechCrunch²⁵⁴³、他各種調査レポート⁴⁴⁴⁶。

- 1 5 11 12 21 32 56 57 58 59 60 61 64 65 66 **Google's best AI tools for college students for free**
<https://blog.google/products/gemini/google-ai-pro-students-learning/>
- 2 3 4 6 7 8 9 10 13 14 27 **Guided Learning in Gemini: From answers to understanding**
<https://blog.google/outreach-initiatives/education/guided-learning/>
- 15 16 **3 new Google Gemini app AI tools for students**
<https://blog.google/products/gemini/new-gemini-tools-students-august-2025/>
- 17 19 **Google would like you to study with Gemini instead of cheat with it | The Verge**
<https://www.theverge.com/news/732182/google-gemini-ai-guided-learning-education>
- 18 20 26 28 29 30 31 34 38 **Introducing study mode | OpenAI**
<https://openai.com/index/chatgpt-study-mode/>
- 22 35 62 63 67 **Meet Guided Learning, Google Gemini's answer to ChatGPT's Study Mode for students**
<https://www.moneycontrol.com/technology/meet-guided-learning-google-gemini-s-answer-to-chatgpt-s-study-mode-for-students-article-13408520.html>
- 23 24 37 50 53 68 **ChatGPT's Study Mode Is Here. It Won't Fix Education's AI Problems | WIRED**
<https://www.wired.com/story/chatgpt-study-mode/>
- 25 33 36 39 43 48 49 **OpenAI launches Study Mode in ChatGPT | TechCrunch**
<https://techcrunch.com/2025/07/29/openai-launches-study-mode-in-chatgpt/>
- 40 41 42 **Expanding Microsoft Copilot access in education | Microsoft Education Blog**
<https://www.microsoft.com/en-us/education/blog/2023/12/expanding-microsoft-copilot-access-in-education/>
- 44 45 52 55 **AI in the Classroom**
<https://www.waltonfamilyfoundation.org/ai-in-the-classroom>
- 46 **Generative AI & The Future of Learning - Aurora Institute**
https://aurora-institute.org/cw_post/generative-ai-the-future-of-learning/
- 47 **Teachers Report Increase in AI Usage - THE Journal**
<https://thejournal.com/articles/2024/06/20/teachers-report-increase-in-ai-usage.aspx>
- 51 **[PDF] AI in Education: A Microsoft Special Report**
<https://www.microsoft.com/en-us/education/msdownloads/AI-in-Education-A-Microsoft-Special-Report.pdf>
- 54 **More Districts Are Training Teachers on Artificial Intelligence - RAND**
https://www.rand.org/pubs/research_reports/RRA956-31.html